

令和6年度 大阪府立豊中支援学校 第2回 学校運営協議会記録

- 1、日時：令和6年9月25日（水）10：30－11：45
- 2、場所：本校調理室
- 3、構成：＜ 委員 ＞ 6名
 ＜事務局＞ 校長、教頭2名、首席2名、教諭1名
 ＜ 傍聴 ＞ なし
- 4、内容

10:30	第2回協議会次第説明 校長挨拶	（ 事務局 ） （ 校 長 ）
10:35	報告及び協議、質疑応答 ・学校教育自己診断、学校生活アンケートの実施について ・学校経営計画に関する進捗報告 →ICT活用実践報告 →避難訓練 →学校間交流 ・創立50周年記念アニバーサリー式典	（ 委員長 ） （ 首 席 ） （ 指導教諭 ） （ 首 席 ） （ 首 席 ）
11:30	事務連絡	（ 事務局 ）

上記のとおり報告等を行い、各委員より次のような意見をいただいた。

学校教育自己診断、学校生活アンケートの実施について

＜委員より＞

- ・マチコミメールを利用することで、保護者にとって回答しやすく、わかりやすくなると思う。
- ・記載方法の工夫も、保護者により伝わる内容になったと思う。
- ・学校間交流の報告と絡めて・・・交流の方向をアンケート実施前に発信したら、回答率も変わるだろう。

学校経営計画に関する進捗報告

◎ICT 活用実践報告について

＜学校より＞

- ・「いつでもどこでも ICT」という当初の目標に近づいたが端末のみの活用ケースが多い。端末とクラウドサービスの活用の浸透にはまだ時間が必要。
- ・アラコム STEAM チャレンジに応募（プログラミング学習・問題解決学習に向けての取組み）し、採択された。
- ・ICT 夢コンテスト 2024 に応募。一人一台端末の活用から、「置換機能」とクラウドサービスを活用した、ふりかえりシート作成の実践を発表した。
- ・栄養教諭から給食について Classroom を通じて全校に情報を発信。家庭科の授業で活用したり、各学部から返事や感想が届いたり、Canva でデザインした感想を全校で共有できる。

＜委員より＞

- ・参観でタブレット端末を活用した学習の様子をみて、子どもの課題に欠かせないツールだと感じた。
- ・「話す」「書く」といった教育のベースの上に ICT 機器の活用があることを忘れがちになる。この点

も含めて、タブレット端末の利活用の工夫を考える良い機会になっている。

- ・障がいのある方の進路（職域）が ICT 機器を使った内容のものにも広がっている。
- ・人間関係に課題がある子どもにとってはありがたいツールである。在宅の仕事も増え、卒業後にも活かせるように、高校からでも PC を使った学びができることは必要だと感じた。
- ・学部横断型キャリア教育の取り組みは、人のつながりを大切にした取り組みで素敵である。
- ・ICT 活用が教育活動の中に着実に根付いている。引き続き子どもたちの深い学びにつなげていっていただきたい。

◎避難訓練時における「マチコミメール」のアンケート返信率について

<学校より>

- ・9月の訓練時では、災害が起きたことを想定したお迎え方法の回答項目を追加した。
1時間後の返信率は40%に満たない。協力していただく案内の工夫を引き続き検討していく。

<委員より>

- ・「なにかあったときは、学校からメールがくる」ということに慣れていただく。
- ・メールの周知を PTA でも協力できないか。

◎学校間交流について

- ・オンライン交流について、WiFi 環境を整えることは大切である。
- ・対面でできること、また、子どもたちの親睦を深める機会があって良い。
- ・地域の学校の人たちに障がいのことを理解していただき、その方たちが将来の社会の人材につながるとうれしい。

全体を振り返っての感想・意見

<委員より>

- ・学校の活動を PTA の方にもっと知ってもらいたい。
- ・児童生徒数が多い中、こまやかに取り組まれている。
- ・居住地校交流の報告も聞きたい。
- ・個々の課題の差が大きいが、引き続き工夫をこらして、今後も取り組んでほしい。